

第2回審議会における質問事項とその回答

資料3 補足

| 番号 | ページ | 委員質疑 | 市回答 |
|----|-------|--|---|
| 1 | 32 | 全体的に現状分析が不足しているように感じた。特に「第3章 気候変動適応計画」について、清瀬市で想定される影響が一般的な内容の印象を受ける。例えば、清瀬市の熱中症被害件数を調べるなど、現状分析の余地があるのではないか。 | ○東京消防庁に熱中症搬送者数データについて確認したところ、2018年から記録はあるが、最も搬送者数が多かったのが2018年の64名であり、その後は横ばいの数値となっていると報告がありました。また、データ自体も7年間しかなく、効果的な分析が出来ないと判断したため掲載はしないこととした。 |
| 2 | 32 | 清瀬市の気候変動の現状について、「100年あたり約4.1℃の割合で上昇しています」と記載があるが、これはかなりインパクトがあり危機感を与える可能性があるデータなので、算出根拠を記載した方が良いと思う。 | ○「多摩地域の年平均、最低、最高気温は短期的な変動を繰り返しながら上昇しています。」へ表現を改めました。 |
| 3 | 32 | 気候変動適応計画について、気象データが府中市のデータになっているが、清瀬市の気候を把握するには府中市のデータだと距離が離れており実態把握のためには不十分ではないかと思う。清瀬市には気象衛星センターがあるが、そちらで市内の気象データを提供してもらうことは可能か。府中市で測定した気象データを掲載するのであれば、そのような事情を注釈で載せた方が良い。 | ○清瀬市の気象衛星センターでは観測は実施しておらず、気象庁の観測地の内、都内で一番近い場所が府中市でした。(周辺の観測地は、府中市、所沢市、さいたま市。) 地球温暖化対策区域施策編についても府中観測所のデータを活用しているため、本計画においても同観測所のデータを使用します。 ○府中観測所の気象データを使用するため以下の修正をしました。 P.32「清瀬市の気候変動の現状」→「多摩地域の気候変動の現状」 P.32「なお、本市周辺では府中市、所沢市、さいたま市などの観測所がありますが、ここでは府中市のデータを掲載しています。」を追記しました。 |
| 4 | 50 | 「施策1-4 浸水対策の推進」について、施策名称に「雨水の有効活用」も追加してはどうか？ | ○本施策における浸水対策は、雨水の排除・流下・雨水貯留と考えておりますので雨水の有効活用については、施策1内で記載させていただきました。 ○施策1の2項目にある雨水の有効活用の内容についてより具体的な内容に変更をしました。 「雨水の有効利用や浸水被害の軽減、地下水涵養を図るため、透水性舗装や雨水利用設備の導入を推進します。」→「浸水被害の軽減や地下水涵養を図るため、透水性舗装、公共施設などへの雨水貯留・浸透施設の設置、一般住宅などへの浸透マスの設置の推進に努めます。さらには、事業者への雨水利用設備の導入を促進します。」 |
| 5 | 67 | 目標・施策について、基本施策5-1に「施策2 環境教育の推進」と「施策3 環境学習の推進」があるが、施策名称が似ており、分かりづらい。 | ○施策名称を「環境教育の推進」、「環境学習の推進」→「環境教育・学習の推進」へ変更。 また、基本施策を「環境教育・環境学習の推進→持続可能な地域を育む人づくり」に変更。 |
| 6 | 資1～20 | 専門的な用語の多いが注釈をつけるのか。 | ○資料集を作成しました。 |
| 7 | 概要版 | 「計画概要」は、より分かりやすい形に見直しが必要だと考える。計画策定の経緯や位置付けなどの記載が無く、内容を端折りすぎている印象を受ける。また、計画本文と言葉の表記を一致させた方が良い。「②現状と課題」について、表形式で整理して記載した方が、分かりやすく、省スペースで表記できると思う。省スペース化することで、他の項目を記載する余地が生まれるのではないか。 | ○レイアウトを「A3 両面→A4 7ページ」に変更しました。 ○策定の経緯、位置付けを追加しました。 ○基本方針ごとにページを作成し、現状から各主体の取組をわかりやすくしました。 |
| 8 | 概要版 | 「計画概要」の「④未来像と目標・施策」について、「基本施策」と「個別施策」の記載内容が同じものがあり、具体的な施策内容が分かりにくい。(リサイクル・リニューアブルの推進、廃棄物適正処理対策 等) | ○レイアウトの変更、内容の整理を行いました。 |